



栄養療法のきほん ～血清アルブミン～

血清アルブミン についてもっと知ろう

血清アルブミン値は重要な栄養状態の指標

血清アルブミンは血液中のたんぱく質の一種で総たんぱく質の約 6 割を占め、主に、栄養・代謝物質の運搬、浸透圧の維持などの働きをしています。また栄養状態を評価する際に、低栄養になっていないか調べる指標となっています。

血清アルブミン値でわかるのは、3 週間前の栄養状態

血清アルブミン値は半減期が約 21 日と長く、中・長期的な栄養状態を反映するので、『今』の栄養状態ではなく『約 3 週間前』の栄養状態を示すものとなります。

アルブミン値が低下する原因は低栄養だけではありません

栄養因子以外の他の疾患により起こる可能性もあり、他の検査値と比較して評価していく必要があります。



肝機能障害による低下

血清アルブミンは肝細胞で作られ血液中に存在しています。何らかの異常で肝機能が低下すると 肝臓のアルブミンを作る能力が低下するため 血液中の数値が下がります。この場合 γ -GTP・ALT・AST の上昇、コリンエステラーゼ・総コレステロール・血小板の低下などがみられます。



たんぱく質の喪失による低下

腎不全・ネフローゼ症候群・広範囲熱傷などによる腎臓や体表面からのアルブミン漏出、胸水や腹水貯留による体内へのアルブミン貯留により、アルブミン値が低下します。



たんぱく質の消費量増大による低下

体のどこかで炎症が起こると、炎症部分局所でアルブミンの消費増大が起こり、血清アルブミン値が低下します。手術後や感染などの侵襲が加わっている状況では、アルブミン値が急速に低下することがあります。

→ CRP を同時に測定し、疾患による影響を考慮します。



脱水により上昇することがあります

血液が濃縮することにより見かけ上アルブミン値が上昇します。アルブミン値以外にも、ヘモグロビンや Na・Cl など脱水を示す値があわせて高値になることが多いです。

